

2009年9月4日

第1回フードツーリズム研究グループ報告書

■2009年8月28日（金）キャンパスポート大阪 ルームG

■出席者：1 峯俊智穂、2 大和里美、3 浅野幸治、4 富本一幸、5 亀岡育男、
6 片上敏喜、7 濱田美雪、8 金井萬造、9 李 良姫、10 原田弘之
11 近藤政幸、12 山川雅行、13 尾家建生、（事務局）佐藤智子 14名

1. 会合の内容

冒頭に尾家から本研究グループ設立の背景と目的について説明があり、ついで、参加者全員に自己紹介と、この研究グループの研究テーマ、進め方等について意見の発言を求めました。各発言の詳細は省略しますが、要旨は次のような内容です。（文責：尾家）

- ① フードツーリズムの現状：各地において食によってツーリズムが発生する現象が見られ、地域における「食」の重要性が高まっている。食は地域の魅力を一番具現化しているといえる。亀岡弁当の大学生とのタイアップによる開発の例など（富本）。
- ② 地域のフードツーリズム：食文化を生かした地域ビジネスをどう構築していくか。和歌浦のシラスでの集客による旅館、生産者、仲買へのメリットの例（近藤）。女性のがんばっている地域が活発（原田）。人を軸にした視点から取り組みたい（濱田）。食は地域の磁石になれる。食を深め、食を押し上げるにはどうしたらいいか（金井）。
- ③ 都市のフードツーリズム：場の空気としての文化と食、具体的に大阪を元気にするには何をすればいいか（大和）。大阪はポテンシャルはあるが努力をしていない（浅野）。食のコレクションをやりたい（亀岡）。関西は食品加工に強い（原田）。
- ④ 全体テーマ：フードツーリズムを定義し、研究の軸のあり方をしっかりする必要がある（峯俊）。フードツーリズムの理論を基礎にして、その実践において「成功する方程式」をつくる（亀岡）。全国の事例の分析からもうかる「フォーマット」作りをする。特にブランドの作り方（山川）。フードツーリズムの目指すところは何か。観光における食の根本的な意味は（片上）。この研究会をバックヤードにして新しいことに取り組むべき（浅野）。冊子にまとめることが必要（原田）。
- ⑤ 個別テーマ：食文化のフェスティバル、及びグリーンツーリズムに食をどう生かすか（李）。

2. 次回スケジュール

2009年10月1日（木）18:30～20:30 キャンパスポート大阪 ルームG
・尾家建生「横手市でのB級グルメ・グランプリ」の報告（以上）